

事例検討の進め方

大西 良

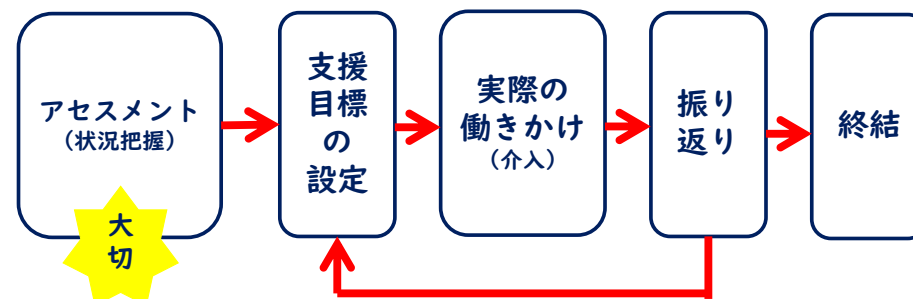
アウトライン

1. 事例検討の目的
2. 支援の展開過程
(ミクローマクロの視点)
3. マッピング技法とは

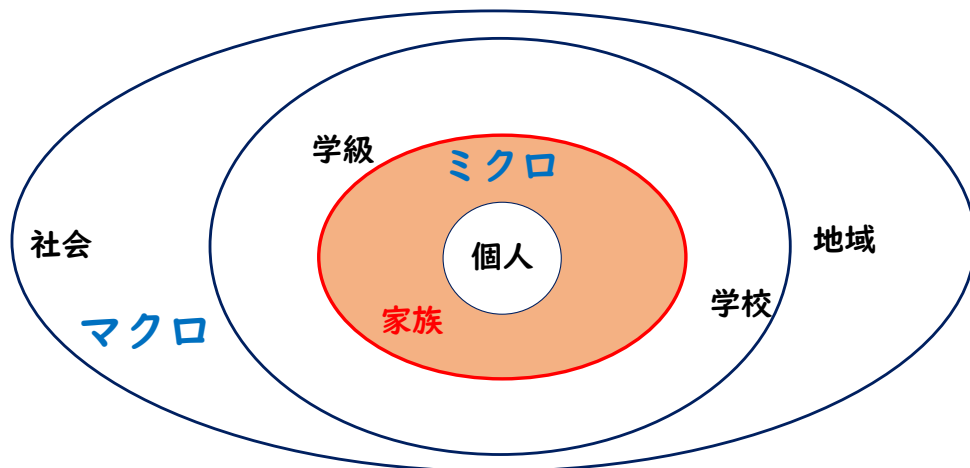
1. 事例検討の目的

- ・ 課題を抱える子ども（家庭）の背景を探る
- ・ 課題の本質を見極める
- ・ 具体的な支援方法を検討する

2. 支援の展開過程①



2. 支援の展開過程②



3. マッピング技法①

援助を展開する中で、対象者の周辺を図式化する技法。対象者と関連する人々や環境などを図式化することで、対象者の複雑な相互関係の全体像を見渡せ、問題点を抽出したり、対策を講じたりするのに有効。

(社会福祉基本用語辞典 川島書店より)

マッピング技法 = マップ (地図) を描くこと

3. マッピング技法②

マッピング技法を活用することの効果

- 言葉で伝えるよりも、分かりやすい。
- マップを使用すると、複雑なことが理解しやすい。
- マップにすることで、次に何をすれば良いかという発想が浮かびやすくなる。
- 忘れていたことを思い出したり、知らなかった事(内容)に気づくことができる。

<栗田修司著「わかりやすい福祉支援の記録」より>

3. マッピング技法③

マッピング技法の種類

- ジェノグラム
- エコマップ
- ファミリーマップ

詳細は別紙を
ご参照ください

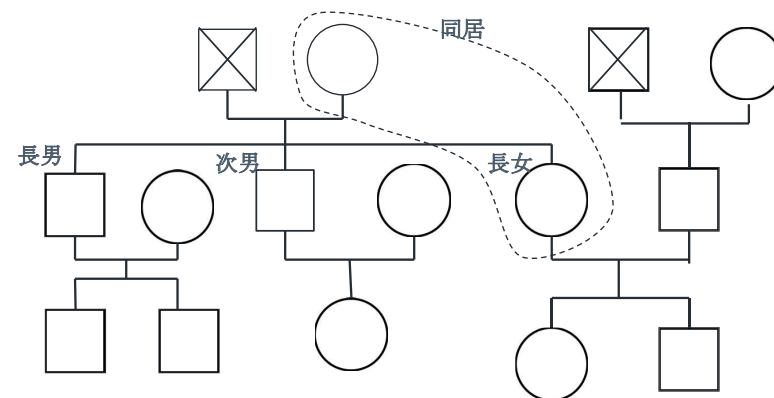
練習課題



家族の関係性

- 最近、マスオさんとサザエさんの関係が良くない（険悪な関係）。
- ワカメちゃんとカツオくんは、二人とあまり関係を持ちたくない（希薄な関係）。
- それをみかねたフネさんが、サザエさんに干渉する（過干渉）。
- タラオちゃんの心のよりどころは、猫のタマだけである（親密な関係）。

事例検討（グループワーク）



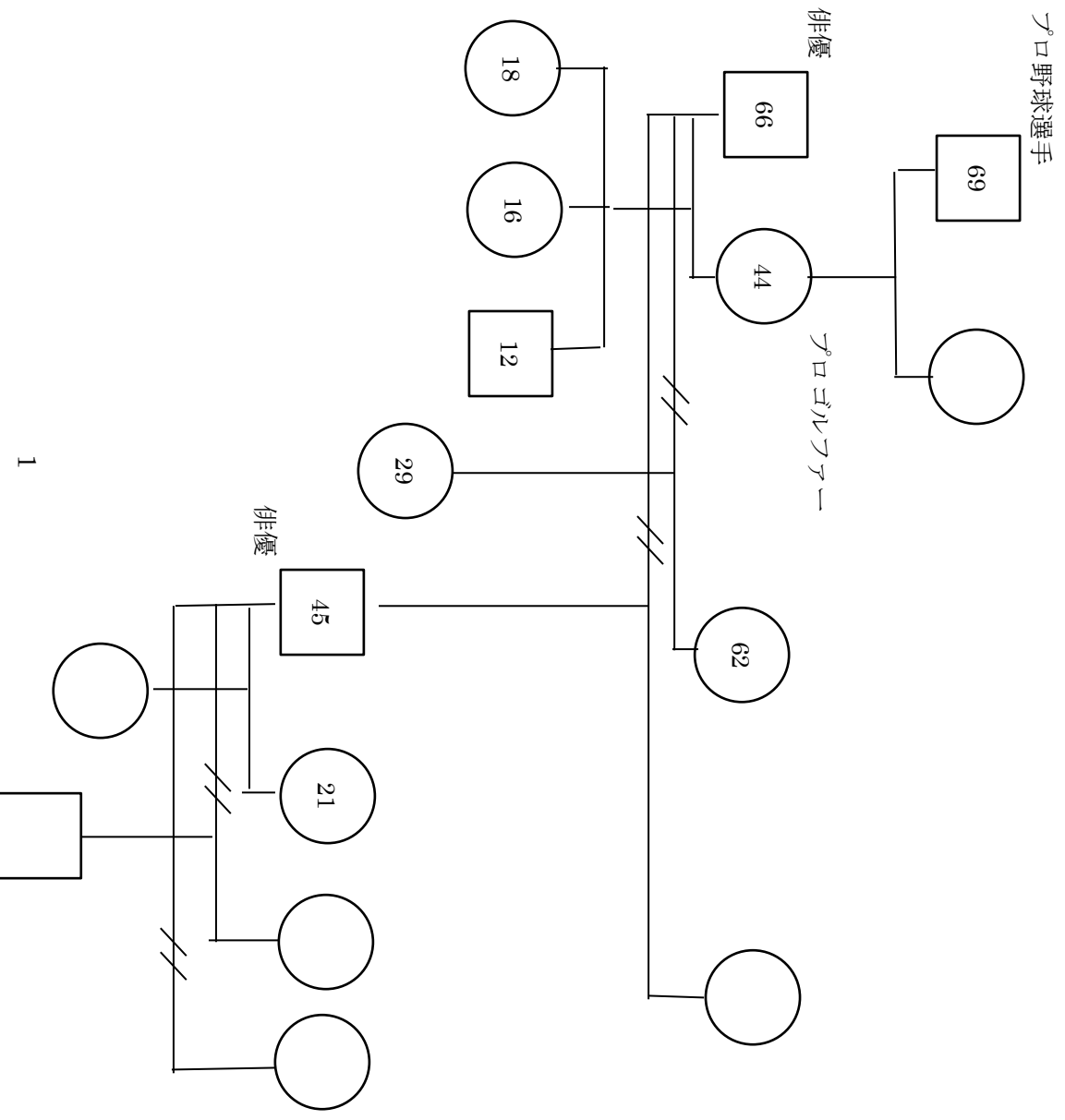
ラッピング技法の種類

ラッピング技法にもいくつかの種類があるが、代表的なものとして、ジェノグラム、エコ・ラップ、ファミリー・ラップなどがある。

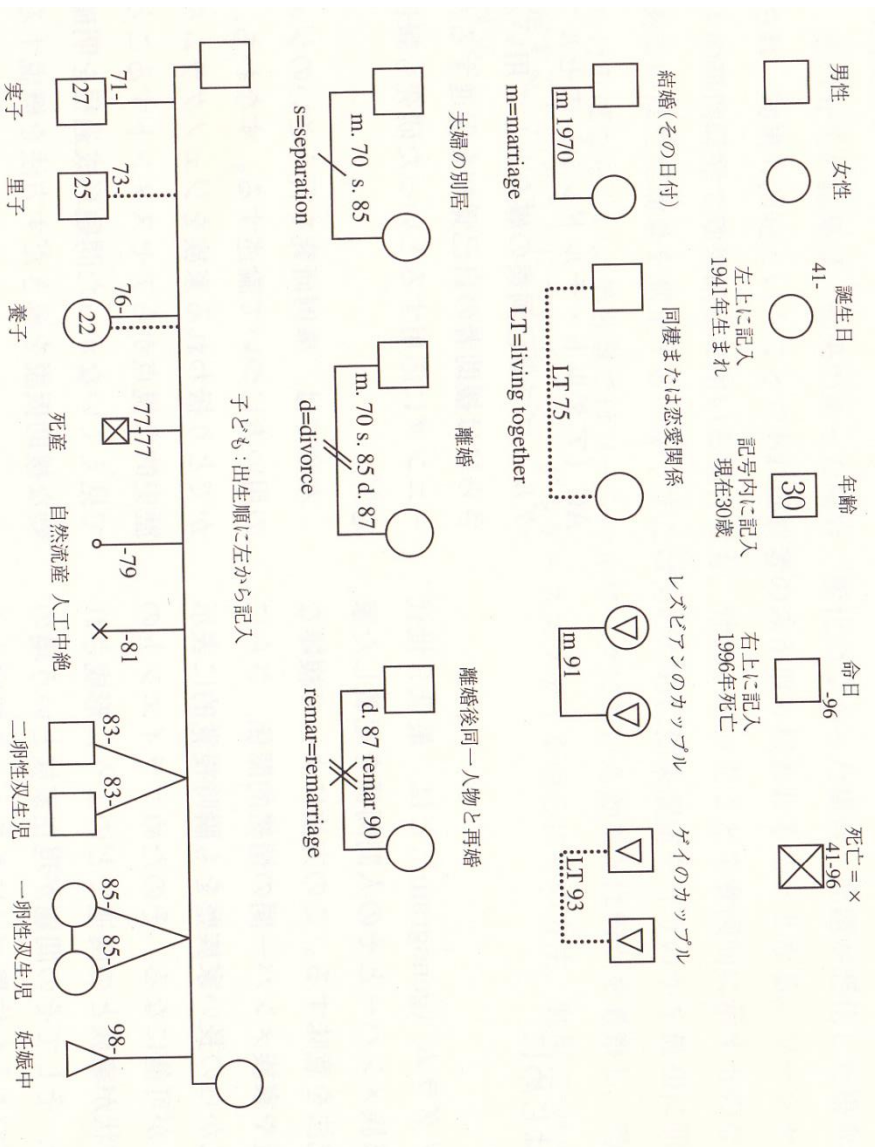
●ジェノグラム (genogram) とは

ジェノグラムは「世代関係図」と呼ばれ、1970年代に家族システム論（家族療法）のM.ボーン（精神分析家）によって体系化された技法である。M.ボーンは、精神分析学派の影響を強く受け、現在の家族から過去の家族に目を向け、それを図式化する方法としてジェノグラムを用いるようになった。ジェノグラムは今の家族を基に過去の家族を描いていくと、だんだん上の方に広くひろがり、まるで樹木のように見えることから、家族樹 (Family Tree) と一般に欧米では言われている。ジェノグラムは3世代以上の家族構成とその関係を記号や関係線を用いて図式化するものであり、対象者の家族や家系がもつ構造や世代間で引き継がれている特徴などが記載される。

ジェノグラムの例



<シエングラムで用いる記号>



出典：日本社会福祉実践理論学会監修「事例研究・教育法 理論と実践力の向上を目指して」
川島書店 2004年 p44

●エコ・マップ (eco-map) とは

エコマップは「生態地図」または「社会関係図」と呼ばれ、1970年代にA・ハートマンによって考案された。

人間は社会生活を送る上で、他の人間や社会制度、機関といった環境との密接な関わり合いの中で生活をしている。そして、個人と他の人間を取り巻く環境との相互作用は複雑多様であり、常に変化が生ずる。このように、個人を取り巻く生活上の環境と相互性を分かりやすく視覚的に図式化したものがエコ・マップである。

エコマップは、対象者をめぐる生活環境の概略を総覧したり、特定の個人や組織、機関との関係を把握するために有効な技法である。また、特定の個人のエコマップを継時的に作成することにより、対象者と生活環境の変化を理解することができる。

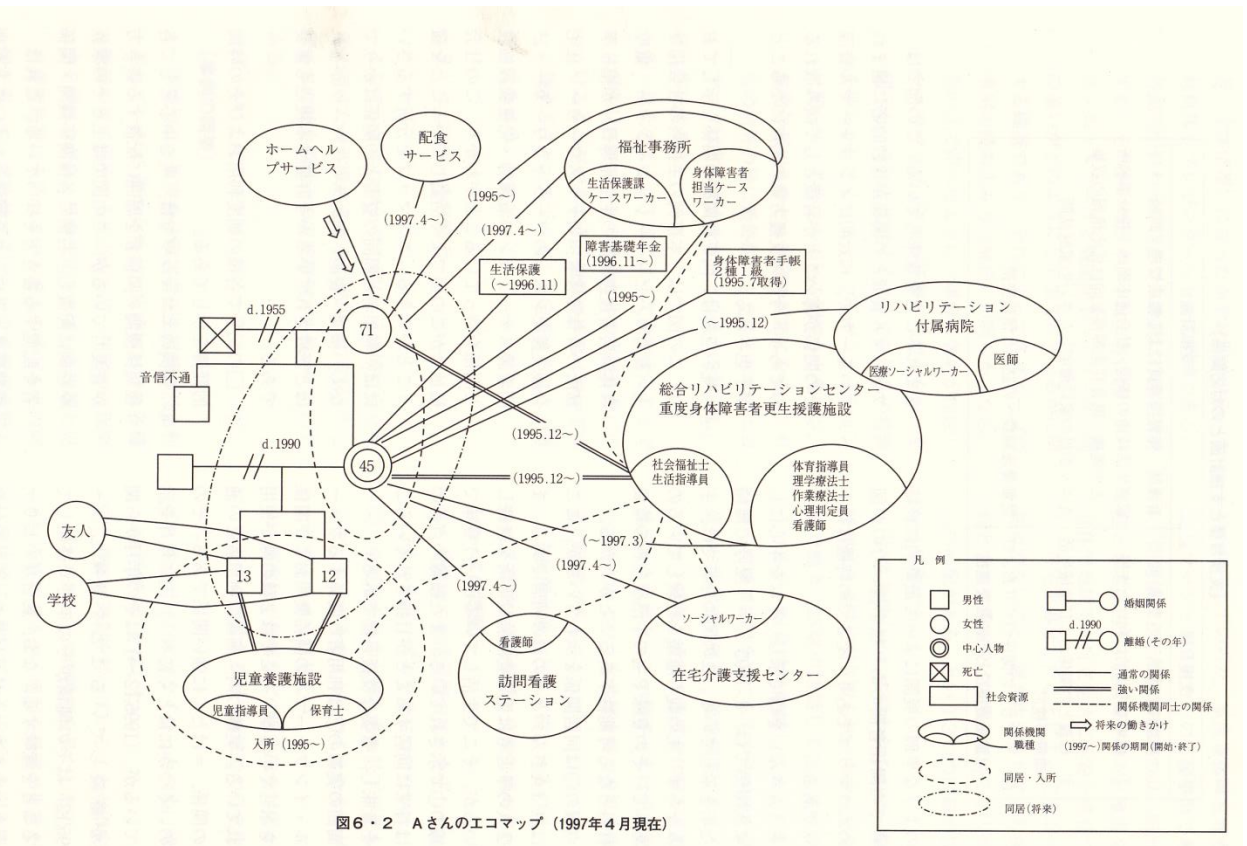


図6・2 Aさんのエコマップ (1997年4月現在)

出典：日本社会福祉実践理論学会監修「事例研究・教育法 理論と実践力の向上を目指して」

川島書店 2004年 p62

●ファミリーマップとは

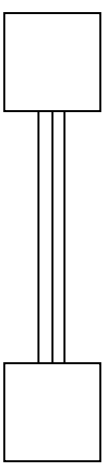
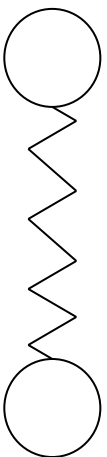
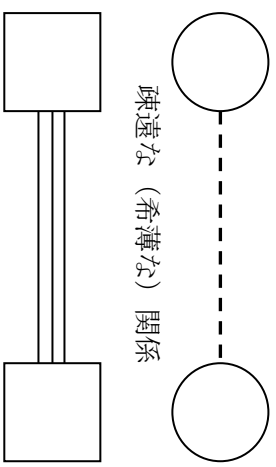
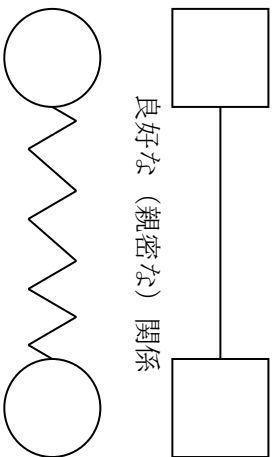
心理学や社会福祉学（ソーシャルワーク）で用いられる家族アクセスメント技法の一つで、簡単な記号や線を使って図解化（マップ化）するものである。

夫婦関係、親子関係、兄弟姉妹関係などを図解化することで、家族の全体像を視覚的に捉えることができる。特に多子や複雑な家族構成の場合、情報を整理しやすくなる。

<ファミリーマップで用いられる記号>

情緒的（心理的）な関係性

※犬や猫などのペットも記号を用いて記すことがある。



出典：日本社会福祉実践理論学会監修「事例研究・教育法 理論と実践力の向上を目指して」

川島書店 2004年 p44

ファミリー・マップでは、家族内の力関係、家族間の情緒的（心理的）な関係、コミュニケーションなどを図示することによって、家族メンバー間で起きている課題や葛藤、世代間で連鎖する問題などを把握すること際に役立つ。

【補足資料】家族周期（家族のライフサイクル）

家族周期とは、結婚から夫婦の死亡までの家族構成、生活水準、家族の社会的活動や欲求などを周期的に捉えるもの。

- ①新婚期：婚礼から第1子誕生まで
- ②出産・育児期：子どもが生まれ、2者関係から3者関係に変わる段階
- ③教育期：親と思春期の子どもの関係では自立と依存の葛藤が激しくなる
- ④子どもの独立期：第1子が家を出て社会的に自立してから、末子が巣立つまで
- ⑤子どもの独立後の夫婦期：夫婦関係の再発見
- ⑥老後期：家族の喪失を体験する時期

※家族周期における発達課題

- ①新婚期：新しい生活様式を作り上げていく時期、夫婦として絆を深めていく。
- ②出産・育児期：育児という役割行動を獲得する、夫婦の役割分担（性別役割分業）。
- ③教育期：学校を通じて社会との関わりが深くなる、子どもの社会化を進める。
- ④子どもの独立期（分離期）：子の親離れと親の子離れを同時に進行させる。
老後の設計、老親介護の問題、更年期などの健康問題。
- ⑤子どもの独立後の夫婦期（成熟期）：定年退職、新たな生きがいを見出す。
年金生活のために安定した家計の維持が課題、祖父母としての役割。
- ⑥老後期（完結期）：配偶者を失い一人暮らしか子どもとの同居になる、終末を迎える。
<カーターとロクゴルドリック「家族発達段階論」より>